

都城市上下水道事業経営審議会資料

都城市新水道ビジョンの改訂について



一万城浄水場（S58：完成時）

令和 8 年 7 月 29 日
都城市上下水道局

1 水道ビジョンについて

- ① 水道ビジョンとは
- ② 目指すべき将来像と基本目標

2 持続

- ① 業務指標の現状評価
- ② 課題のまとめ
- ③ 将来像実現のための施策と目標

3 安全

- ① 業務指標の現状評価
- ② 課題のまとめ
- ③ 将来像実現のための施策と目標

4 強靱

- ① 業務指標の現状評価
- ② 課題のまとめ
- ③ 将来像実現のための施策と目標

5 今後のスケジュール

今後のスケジュール

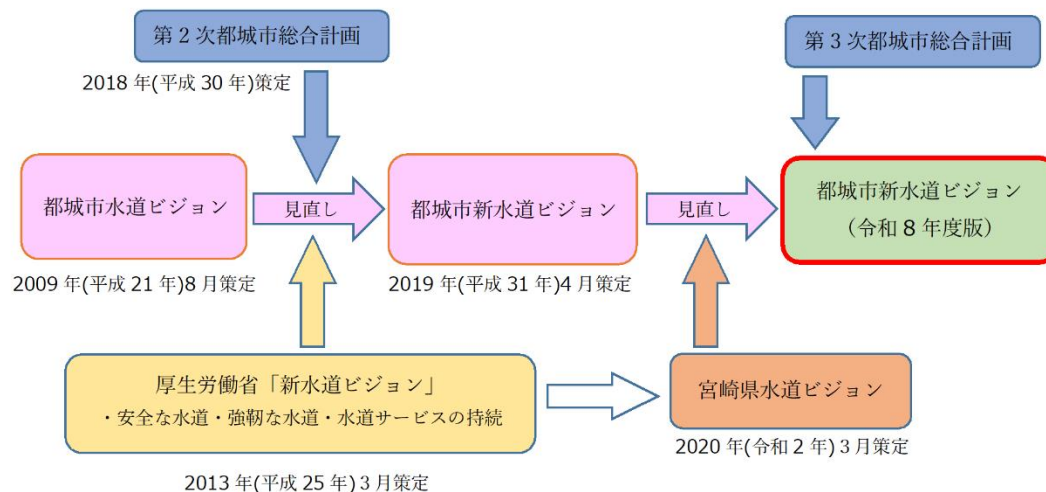
1 水道ビジョンについて

① 水道ビジョンとは

将来にわたって安全で安心な水道水を安定的に供給していくため、水道事業の**現状**や**課題**を整理し、**目指すべき将来像**や**実施すべき施策**を示した**中長期的な計画**。

◆改訂理由

中間見直しの時期を迎えたことから、これまでの取り組みを振り返り、課題や目標の見直しを行った上で、今後の水道事業を取り巻く状況の変化に対応するための改訂



1 水道ビジョンについて

② 目指すべき将来像と基本目標

都城市水道事業の将来像

「いつも飲むおいしい水 都城の水道水」

市民の生命を守り、生活や産業を支えていくことを基本に、安全で良質な水道水を供給するとともに、事業の透明性を確保しながら市民から信頼され、満足される水道の構築を目指します。

目標の設定

持続

いつまでも
安全な水を
安定して供給
します

安全

安心して
おいしく飲める
水を供給します

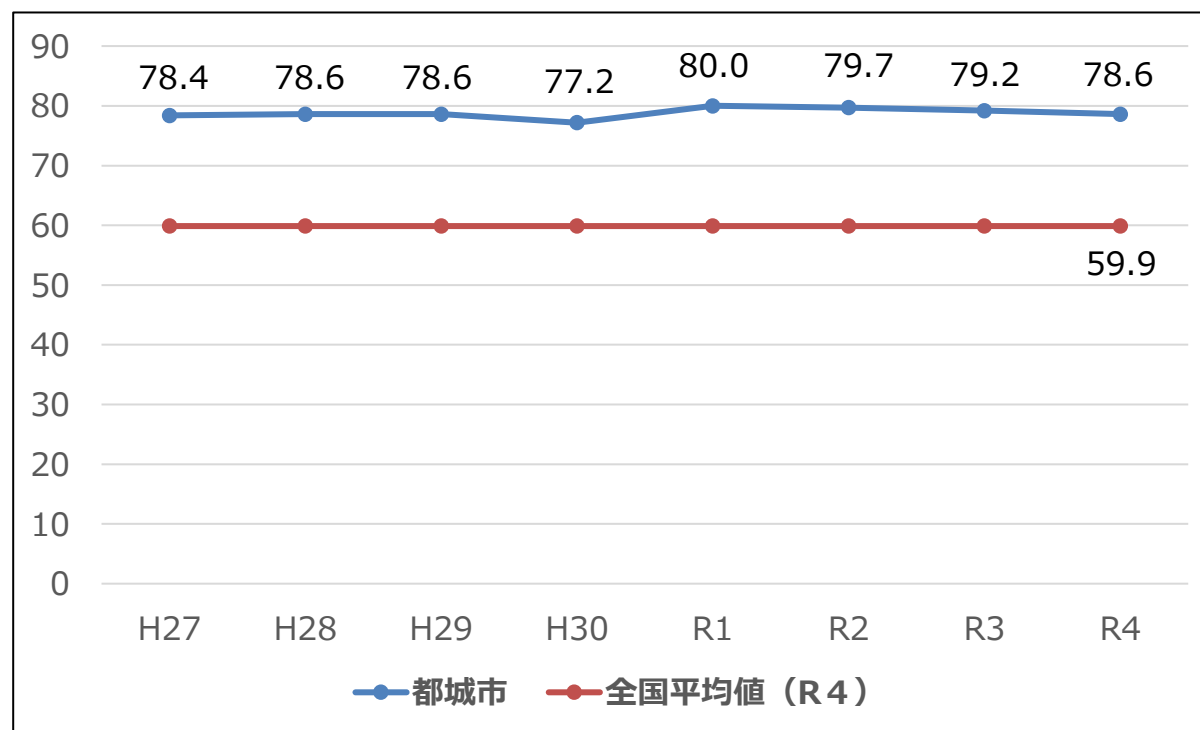
強靱

事故や災害に
強く、いつでも
どこでも
安定的に水を
供給します

2 持続

① 業務指標の現状評価

◆施設利用率（％）

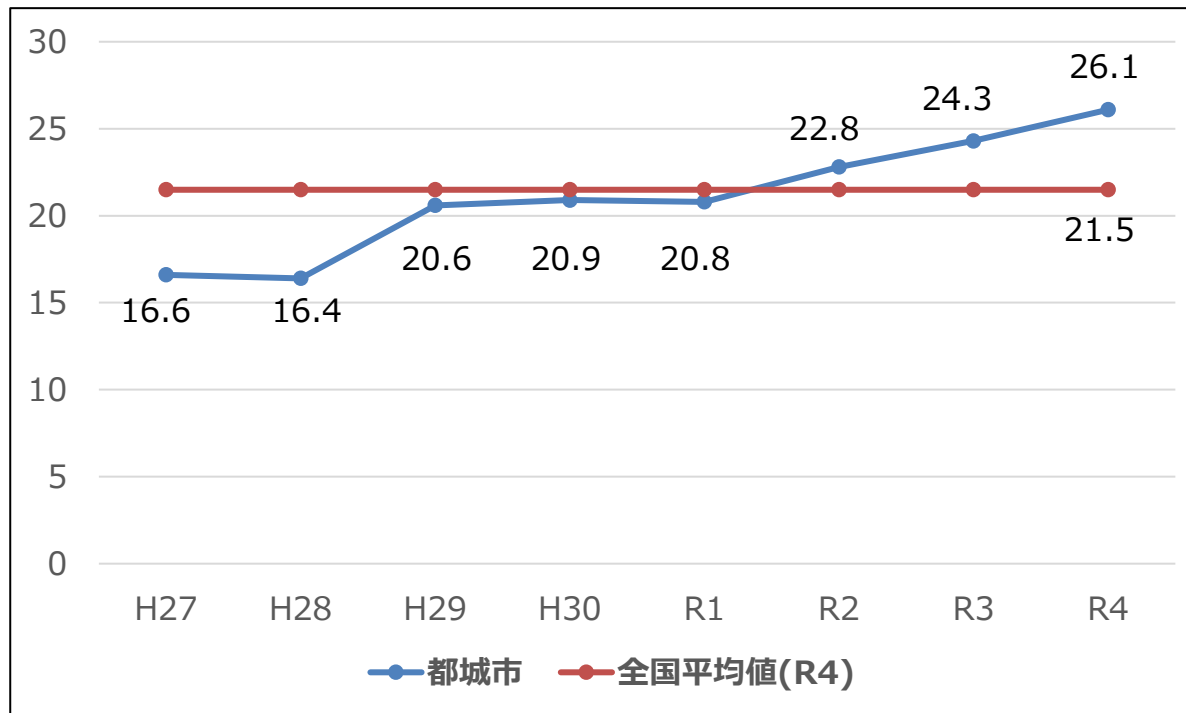


施設利用率について、80％前後で推移しており、
約20％の施設余裕率にて運用している。

2 持続

① 業務指標の現状評価

◆ 法定耐用年数超過管路率（％）



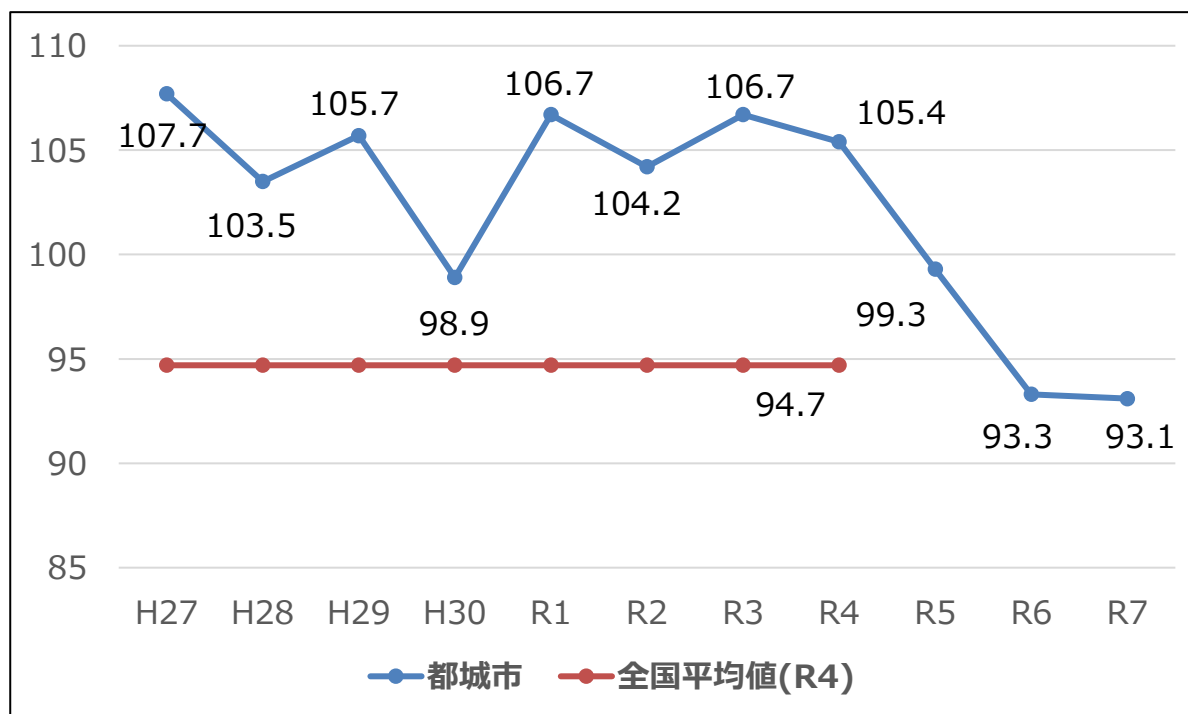
経年化した管路が増加傾向にある。

アセットマネジメントの実践により長寿命化を図っている。

2 持続

① 業務指標の現状評価

◆料金回収率 (%)

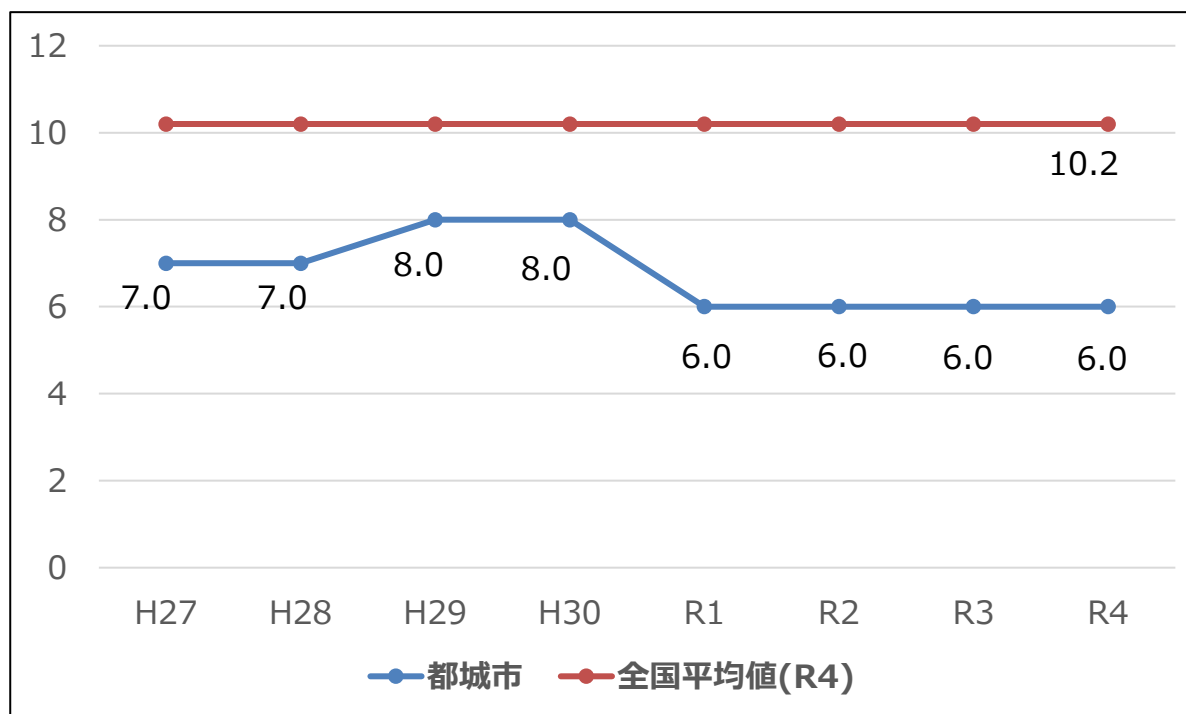


R4までは、100%を若干上回る水準で推移してきたが、
R5以降は100%を下回る状況となっている。

2 持続

① 業務指標の現状評価

◆ 業務平均経験年数（年）



全国平均に比べ経験年数は低い値となっている。

ベテラン職員の退職や若手職員の配置など、定期的な人事異動が行われるため減少傾向にある。

2 持続

② 課題のまとめ

持続

水道サービスや運営の持続性が確保されているか

- ① 経営効率化を踏まえた新たな経営形態の検討
- ② 水道施設の維持管理の省力化の検討
- ③ 既存施設の延命化方策
- ④ 優先順位に基づく老朽化施設の計画的更新
- ⑤ 水需要に応じた施設整備規模適正化の検討
- ⑥ 更新を考慮した施設能力の確保
- ⑦ 将来の給水量減少に伴う料金収入減少への対応
- ⑧ 施設再編整備・更新・高度化のための資金の確保
- ⑨ 健全経営維持のための料金改定の検討
- ⑩ 職員数の適正化
- ⑪ 技術職員の確保と人材育成
- ⑫ 熟練職員退職に伴う技術の継承
- ⑬ 省エネルギー対策や建設副産物のリサイクルの充実
- ⑭ 再生エネルギー活用を検討
- ⑮ 窓口サービスの充実や情報提供などのサービスの向上
- ⑯ 官民連携の推進のための取組み検討
- ⑰ 管理の一体化など広域化の検討

★ 運営基盤や技術基盤の強化

2 持続

③将来像実現のための施策と目標

基本目標		施策目標	施策方針	主な施策
持続 いつまでも安全な水を安定して供給します		(1) 水道施設の再構築	①施設統廃合による再編化 ②施設の延命化、長寿命化 ③施設規模の適正化	◆施設の統廃合により配水区も再編化（維持管理や水運用の効率化） ◆アセットマネジメントの実践 ◆施設の情報集積と電子データ化 ◆適切な施設規模での施設整備
		(2) 健全経営の推進	④適正な給水収益の確保による健全な財政計画の策定 ⑤組織体制の強化 ⑥技術基盤の強化 ⑦エネルギー資源の有効活用	◆事務経営の効率化 ◆投資と財政のバランスを考慮した財政計画 ◆事務の効率化・共通経費の削減 ◆技術員集中による危機管理強化 ◆研修・職員間の技術交流 ◆熟練職員を確保し技術継承 ◆省エネルギー型機器の設置 ◆再生可能エネルギーの有効活用検討 ◆再利用・再資源化（環境配慮工事）
		(3) お客様や関係機関との連携	⑧お客様とのコミュニケーションの活性化 ⑨官民連携の推進 ⑩発展的な広域化にむけての取組検討	◆情報提供・PR ◆窓口サービス・ニーズ聞取り ◆外部委託の充実 ◆施設管理の第三者委託導入の検討 ◆広域連携への取組み ◆災害対応をはじめソフト的な協力

2 持続

③将来像実現のための施策と目標

◆現況評価と数値目標

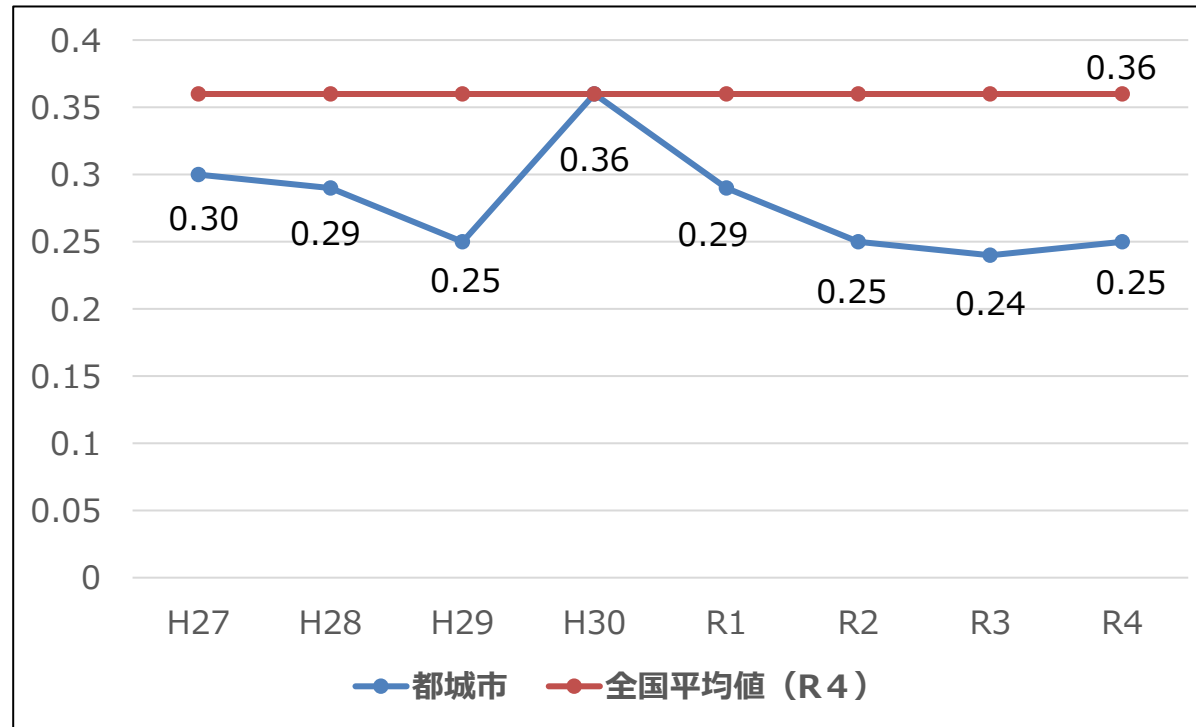
業務指標名	前回数値 H28	現況数値 R4	目標値	
			2030(R12)	2040(R22)
施設利用率(%)	78.6	78.6	72.6	67.7
配水量1m ³ 当たり電力消費量(kWh/m ³)	0.46	0.50	0.47	0.46
経常収支比率(%)	112.6	108.5	110以上	110以上
業務平均経験年数(年)	7.0	6.0	10.0	10.0

効率的で持続可能な水道事業の運営

3 安全

① 業務指標の現状評価

◆ 平均残留塩素濃度 (mg/L)



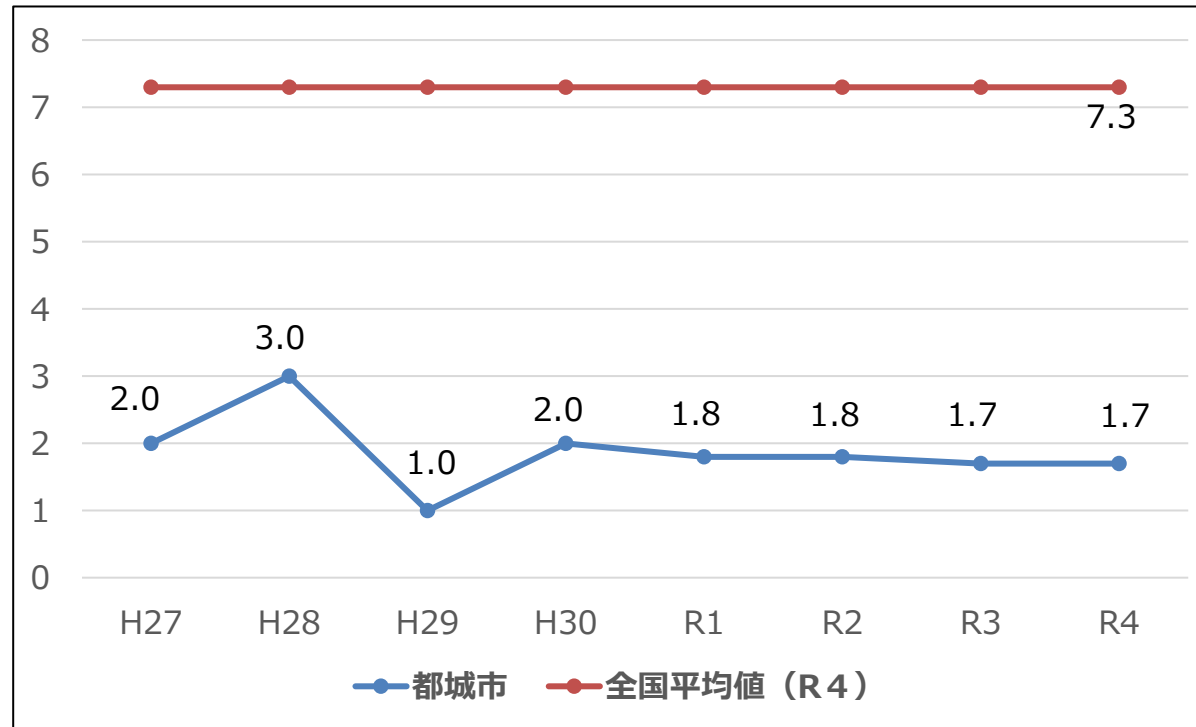
※水道法施行規則第17条で0.1mg/L以上
※「おいしい水の条件」として0.4mg/L以下

全国平均の値を下回っており良質な水道水である。

3 安全

① 業務指標の現状評価

◆ 重金属濃度水質基準比率 (%)



※カドミウム・水銀・セレン・ヒ素・六価クロム・鉛

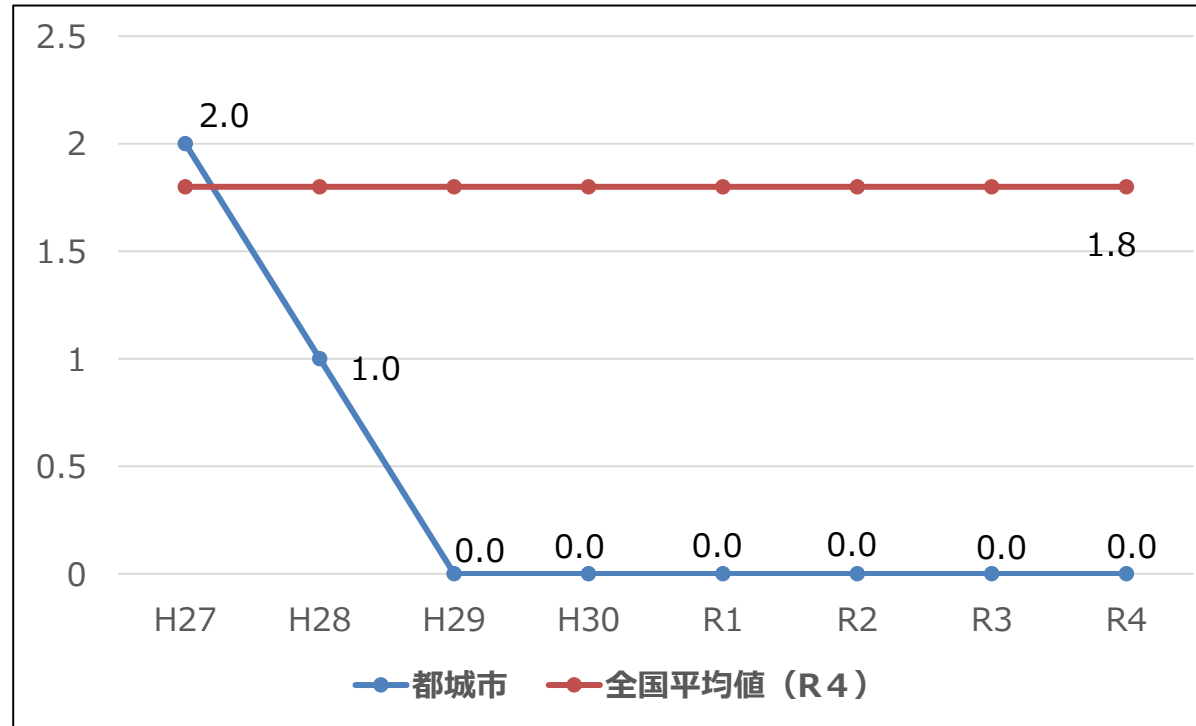
※水質基準値 = 100%

全国平均を下回っており、また数値も低く、安全な水道水である。

3 安全

① 業務指標の現状評価

◆ 有機化学物質濃度水質基準比率 (%)



※四塩化炭素・シス1,2ジクロロエチレン・ジクロロメタン・トリクロロエチレン等
 ※水質基準値 = 100%

全国平均を下回っており、また数値も低く、安全な水道水である。

R 8 から水質基準に追加された、PFAS（有機フッ素化合物）も基準値以下。

3 安全

② 課題のまとめ

安全

安心しておいしく飲める水を供給します

- ①水源の有効利用と水源環境の監視
- ②良質で安定した新規水源の開発と更新
- ③原水から給水まで一貫した水質管理の徹底
- ④水道施設のセキュリティ管理の強化
- ⑤適正な浄水技術の維持・向上
- ⑥貯水槽水道設置者への指導・助言体制の充実
- ⑦水道未普及地域の飲料水の衛生確保
- ⑧直接給水の推進
- ⑨給水装置工事業者の資質の確保

★安全な水の保証と信頼性・満足度の向上

3 安全

③ 将来像実現のための施策と目標

基本目標	施策目標	施策方針	主な施策
安全 安心しておいしく飲める水を供給します	(1) 良質な水源の確保と保全	① 水源水質の保全 ② 良質な水質の水源開発の実施	◆ 原水水質の監視強化 ◆ 大淀川水系水質汚濁防止対策連絡協議会等に参加 ◆ 維持管理と計画的な更新 ◆ 継続して良質な水源開発
	(2) 安心して飲める良質な水づくり	③ 水安全計画に基づく水質管理の徹底と公表 ④ 適正な浄水処理の推進 ⑤ 貯水槽水道等の衛生指導の実施 ⑥ 直結給水の推進 ⑦ 指定給水装置工事事業者に対する指導の実施	◆ 水安全計画のPDCA実施 ◆ 水質結果の公表等による信頼の醸成 ◆ 適正な浄水処理の導入 ◆ 水源の監視強化による浄水方法の検討 ◆ 衛生指導等の実施 ◆ 情報提供等 ◆ 直結増圧式給水の促進 ◆ 直結給水の範囲拡大 ◆ 必要な情報提供 ◆ 講習・研修の実施

3 安全

③ 将来像実現のための施策と目標

◆ 現況評価と数値目標

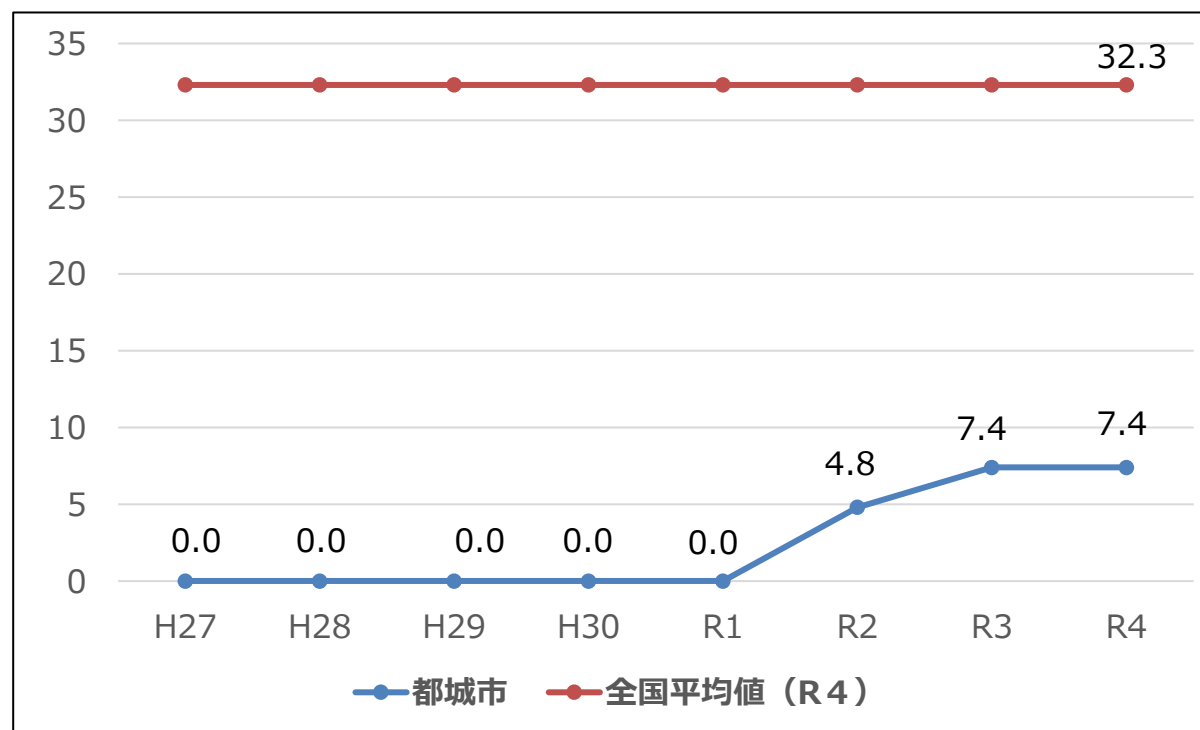
業務指標名	前回数値 H28	現況数値 R4	目標値	
			2030(R12)	2040(R22)
平均残留塩素濃度 (mg/L)	0.29	0.25	0.30以下	0.30以下
重金属濃度 水質基準比率(%)	3.0	1.7	2.0	2.0
有機化学物質濃度 水質基準比率(%)	1.0	0.0	0.5	0.3
水源の水質事故数 (件)	0	0	0	0

安心・安全な水道水に対する信頼性・満足度の向上

4 強靱

① 業務指標の現状評価

◆浄水施設の耐震化率（％）



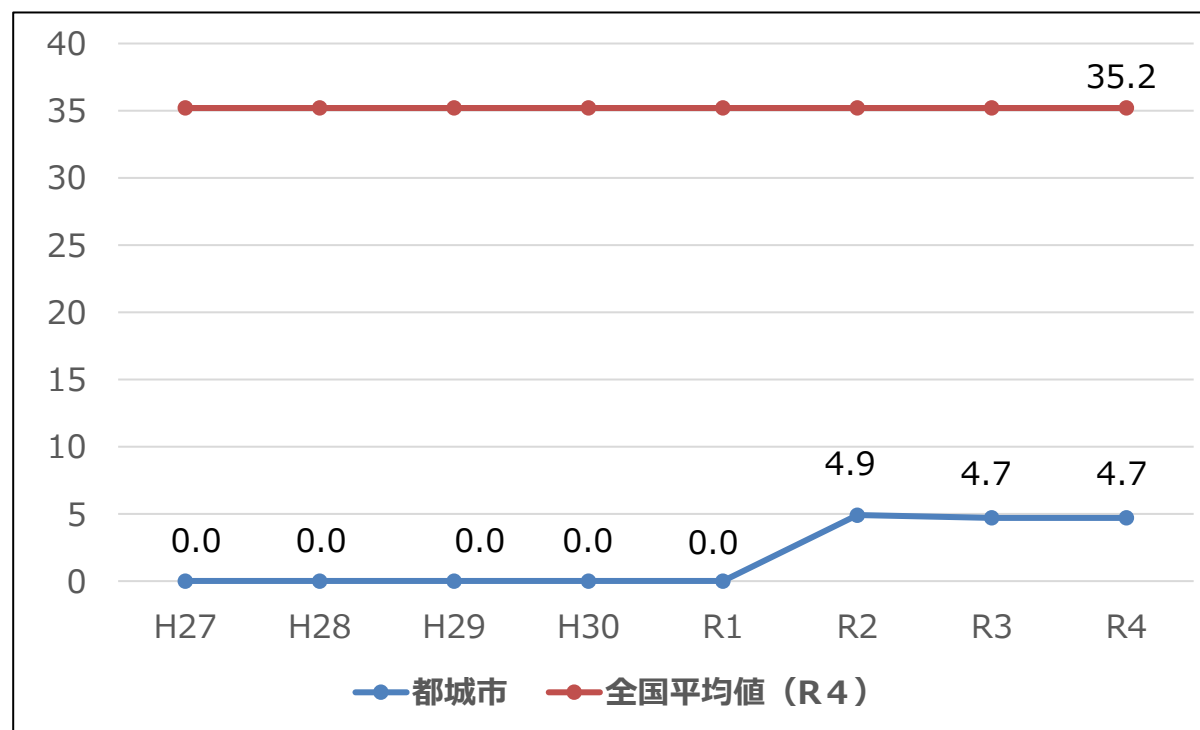
全国平均を下回っており、施設の耐震化率は低い状況である。

現在、川東浄水場更新事業を進めており、更新後は約 31%増加する予定。

4 強靱

① 業務指標の現状評価

◆配水池の耐震化率（％）



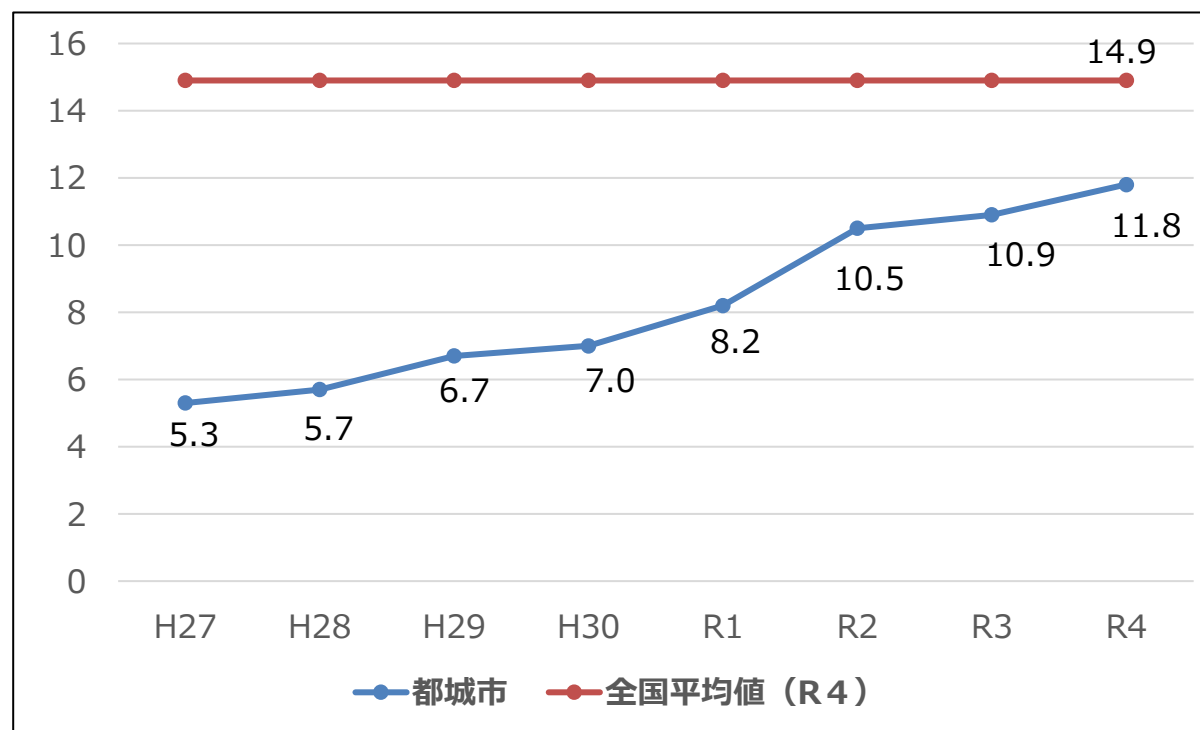
全国平均を下回っており、配水池の耐震化率は低い状況である。

今後、計画している有水配水池、菖蒲原配水池の更新によって約15%増加する予定。

4 強靱

① 業務指標の現状評価

◆管路の耐震化率（％）

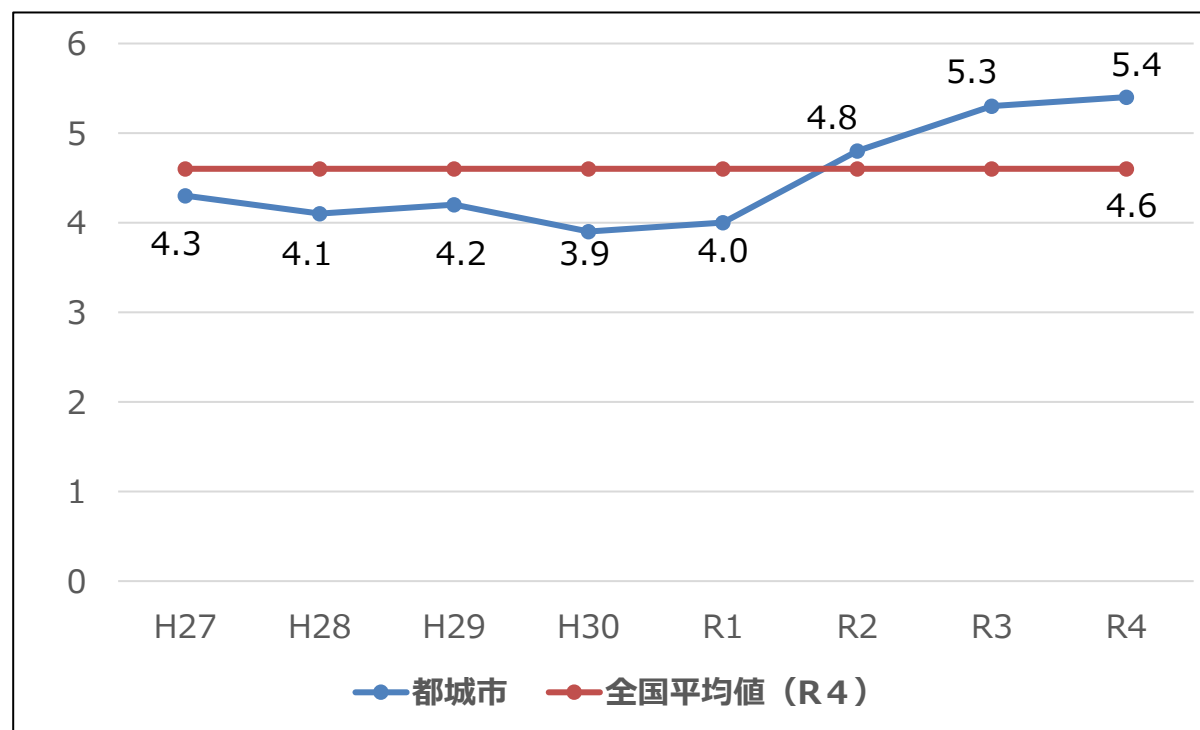


全国平均を下回っているが、着実に耐震化率は向上、年間で約 1 ポイント上昇。
耐震化計画等に沿って、老朽管の更新を進める。

4 強靱

① 業務指標の現状評価

◆給水管の事故割合（件/1000件）



※給水管1000件当たりの事故（漏水）件数

R1までは概ね4.0件を推移していたが、近年は増加傾向にある。

4 強靱

② 課題のまとめ

強靱

事故や災害に強く、いつでもどこでも安定的に水を供給します

- ① 管路更新による有収率の向上
- ② 優先順位に基づく基幹施設・管路の耐震化
- ③ 災害時の緊急給水拠点の確保
- ④ 配水池における緊急遮断弁の設置検討
- ⑤ 非常時に備えた予備能力の確保とバックアップ対策の強化
- ⑥ 非常用発電設備の充実
- ⑦ 応急復旧強化のための資機材の確保
- ⑧ 危機管理マニュアルの見直しと、応急体制の整備と訓練の充実

★危機管理への対応の徹底

4 強靱

③ 将来像実現のための施策と目標

基本目標		施策目標	施策方針	主な施策
強靱	事故や災害に強く、いつでもどこでも 安定的に水を供給します	(1) 強靱な 施設づくり	①適切な施設の更新 ②基幹施設・管路の耐震化 ③重要拠点施設への給水の確保 ④ストック機能の強化 ⑤バックアップ機能の強化	◆アセットマネジメントに基づく施設更新 ◆基幹施設・管路の耐震化 ◆重要拠点施設までの配水管の優先的耐震化 ◆緊急遮断弁の設置の検討 ◆配水池系統間の連絡管の整備推進 ◆配水ブロック化の整備推進 ◆導水管及び送水管の複線化（二重化） ◆自家発電設備の整備
		(2) 危機管理 体制の強化	⑥応急給水・復旧体制の強化 ⑦市民や企業等との協働による危機管理対策の推進	◆危機管理マニュアル・事業継続計画（BCP）による防災訓練・研修 ◆拠点給水、給水車、タンクの確保 ◆人員確保 ◆セキュリティシステムの強化 ◆災害時の住民や企業との連携体制の構築

4 強靱

③将来像実現のための施策と目標

◆現況評価と数値目標

業務指標名	前回数値 H28	現況数値 R4	目標値	
			2030(R12)	2040(R22)
有収率(%)	88.0	89.2	90.5	91.2
給水管の事故割合 (件/1000件)	4.1	5.4	3.4	2.9
管路の更新率(%)	0.17	0.54	0.7	0.8
浄水施設の耐震化率 (%)	0	7.4	14.5	58.4
配水池の耐震化率 (%)	0	4.5	13.0	22.6
管路の耐震化率(%)	5.7	11.8	20.1	27.8

強靱な施設づくりと危機管理体制の強化

5 今後のスケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1回審議会	●								
第2回審議会		●							
パブリックコメント			↔						
修正				←	→				
第3回審議会					●				
策定（公表）								★	

予 定 日	内 容
〃 7月29日	第2回審議会にて、改訂版（案）の内容審議及び承認
〃 9月上旬	パブリックコメントの開始
〃 10月上旬	パブリックコメントの終了
〃 11月中	第3回審議会にて、パブリックコメントの結果説明
R9年2月上旬	改訂版の策定（公表）